



SDGsは豊かな地球を守るため、って大きなテーマでなんだか難しい…  
けれどSDGsは経営課題を解決してくれる大切なキーワードなんです！  
近くの会社をのぞいて見れば、あれ、これもSDGsなんだ！  
小さなことでもまずはひとつ。SDGs、始めてみませんか？

## 光洋製瓦株式会社

## いぶし瓦でつなぐ資源循環と伝統文化



所在地 姫路市船津町5241-5  
 代表者 代表取締役 社員数 8名  
           笹田 奈都子 TEL 079-232-5295  
 HP <https://koyoseiga.co.jp/>

### ✓ 伝統産業の継承と「持続可能な素材」としての再定義

当社は創業100年を超える、日本伝統のいぶし瓦を製造する窯元です。かつて姫路市船津町には40軒近い窯元がありましたが、現在は当社が地域唯一の存在となりました。姫路城「平成の大改修」では、瓦葺きを支える一社として名を連ねるとともに、象徴的な「しゃちほこ（鯨瓦）」も手掛けました。天然の土を焼き上げて作るいぶし瓦は、適切なメンテナンスにより100年以上使い続けることが可能です。また、役目を終えた後も、他家への移設や焼き直しによる再利用ができるため、「土から生まれ、長く使われ、再び活かされる」という瓦の本質的な特徴こそが、持続可能な素材としての真の価値であると考えています。

### ✓ 屋根材から建材へ。廃瓦も資源に。

伝統を守る一方で、いぶし瓦の独特な質感や風合いを活かした壁材や床材など、新たな建材への展開も進めています。瓦を屋根の上だけでなく、人々の手が届く「暮らしの素材」へと広げることで、新たな市場を創出しています。こうした製品ライ

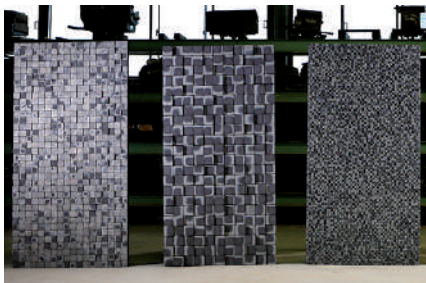
ナップの多様化は、製造現場において女性が活躍できる機会の創出にもつながり、多様な人材が輝く職場環境を実現しています。さらに、資源循環を加速させるため、廃瓦の有効活用にも注力しています。従来は産業廃棄物として処分されていた廃瓦を細かく粉碎し、再生材「シャモット」として商品化。製品寿命を全うした後も資源として循環させることで、廃棄物の削減に貢献しています。

### ✓ 体験と観光を通じて瓦文化を次世代へ

いぶし瓦を「来て、見て、触れて」知ってもらうため、次世代への啓発活動と観光事業を推進しています。工場見学や製造体験を通じて、地元の子供たちが土に触れながら伝統技術を学ぶ場を提供し、瓦文化のファンを育成しています。また、敷地内には瓦屋根の魅力を肌で感じられるゲストハウス「薫銀別邸」や、地産地消の「CAFE koyo」を併設しました。宿泊、食事、製造体験を組み合わせた複合的なアプローチにより、瓦を身近な存在として認識してもらうとともに、瓦文化の魅力を発信していきたいと考えています。



職人の手で仕上げる、伝統のいぶし瓦



いぶし瓦の技術を生かした壁材



瓦の魅力を体感できる「薫銀別邸」